

け
む
り

さ
そ
う
ち
は
る

けむり

好きな人がいる。たまにしか話すことのないあの人。話せば楽しくて、あの人は優しくて。ついその先の「何か」を期待してしまう。なのに私は、あの人のことをよく知らない。

秋がきて、あの人が初めてコートを着てきた。コートからは、ほのかなタバコの匂い。すこし気になって、お昼休みにコーヒールと一緒に買って職場に戻る途中、話が途切れたから何気なくきいてみた。

「タバコ、吸ってましたっけ。」

「いや、僕は苦手だから吸わないよ。同居人のかな。」

もう慣れちゃったからいいんだけど、どうしても匂いって付いちやうし身体にも悪いよねえと、苦手なはずのタバコの匂いについて話すあなたの顔が、一瞬だけはにかんだ笑顔になったのを見逃すはずがなかった。見たことがない、朗らかな笑顔。

秋と冬の境はどこだろう。気がつくくと、秋のやさしい寒さはどこかへ行ってしまった。

けむり

のつくりかた ①

名もない人間がおはなしを書くに至るまでを徒然に書いていきます。

本編とは文体が違うので、お口直し程度に読んでいただくか、
こちらか本編のどちらかを読んでいただければうれしいです◎

こういうおまけ的な試みができるのも、
電子書籍ならではの、とっていただければ。

◆「けむり」について

好きな人ができたら最初になんとか気にすることがありまして。

その人が果たしてお酒を飲む人なのか、
はたまたタバコを吸う人なのか両方なのか、

ということなのですが、

タバコって、吸ってる姿を直接見てっていう他に、
シャツのポケットの膨らみとか、その人に染みついた匂いとか、
そういう間接的な要素が知るきっかけになったりするかと思うんです。

喫煙所においては苦手なんですけど、
吸わなさそうな人からタバコの残り香がすると、
すこしだけ、どきどきします。

それをモチーフにしたおはなしが、この『けむり』です。

お楽しみいただければ、幸いです。